



高知市倫理法人会会報誌

学びを楽しみ、世界を楽しもう！

VOL. **9**

2018年5月

<http://www.rinri-kochi.jp/>

講話 中西浩名誉研究員が、モーニングセミナーで講話されました！



講話「人生五計」

中西浩先生、来たる！

INFORMATION



モーニング
セミナー

さわやかな五月です。モーニングセミナーにぜひお越しください！

毎週木曜日 朝6:00~7:00 ザクラウンパレス新阪急高知 3F

3日(木) 憲法記念日 国民の祝日のためお休みです。	10日(木) 第730回 第15条 「信成万事」 テーマ 『人生の挑戦に活かす コーチングと倫理』 講師 医療法人つくし会 南国病院 高知市倫理法人会 会員 川添哲嗣氏	17日(木) 第731回 第16条 「尊己及人」 テーマ 『法人会活動を 仕事に活かすには』 講師 株式会社エ디션エンタープライズ 大阪府堺市倫理法人会 会長 山本 一氏	24日(木) 第732回 第17条 「人生神劇」 テーマ 『夢と希望の毎日 幸せな人生行路』 講師 西山グループ代表 高知市倫理法人会 会員 西山彰一氏	31日(木) 第733回 第1条 「日々好日」 テーマ 教習同時「七つの原理」勉強会 『対立の原理』 講師 株式会社サイラタウン 高知市倫理法人会 専任幹事 田中伸樹氏
--	---	--	---	---

朝食会の開催 7:05~7:30
 セミナー終了後、朝食をとりながらの懇親交流会を開催しています。
 ぜひご参加ください！

ザクラウンパレス 新阪急高知

お車はホテル1階におとめ下さい
 満車の場合、コイバ-キョウへ(補助あり)

5月の
行事

倫理に入会して、どんな学びが得られたのか？
それが聴けるのは会員オリエンテーションです！

- 地球倫理推進デイ
5/13(日) 7:00~ 城西公園(高知市担当)
- 会員オリエンテーション
5/30(水) 19:00~ オリентホテル高知
発表: 山中祐二氏(高知市中央所属)、岸本菜依氏(高知西所属)
主催: 高知県倫理法人会研修委員会

今月も
学びの多いMSです！
ぜひご参加ください
(^^)



高知市倫理法人会会報誌

2018年5月1日発行 高知市倫理法人会会報制作委員会
発行者/高知市倫理法人会〒781-5106 高知市介良乙 993-1-2F

講話紹介 「五計(ごけい)」とは、人生をよりよく生きるための5つの教訓

中西氏の語る「人生五計」について

全国で多くの経営者に指導をおこなった中西氏は、「人生五計」を、おもに会社や経営者の立場に置き換えて語っていただきました。(家計)に関しては、「社風づくりは50年かかる」とし、世の中に影響を与えるのは50年かかるとのことでした。また、(身計)に関しては、出処進退のことを話し、「前に出たり進んだりするのはそれほど難しくない。退くのが難しい。晩節を汚すことのないよう」とのことでした。そして、最後の(死計)に関しては、「笑顔がたえないようにするべき」と、我々に対しては言いつつも、「自分は野垂れ死にしたい」と付け加えたのが印象的でした。どういう意味で言ったのかはわかりませんが、聴くこともできませんでした。中西氏の「野垂れ死にしたい」という呟きは、これまで多くの経営者を倫理指導し、壮絶で悲惨な相談に乗り、命まで落とした経営者がいたこともあるというご経験と比べて、全国各地で感じる、現代の平穏で甘い風潮への嘆きでもあったのかもしれないと感じました。



単会運営 講師の皆さんに、好きな言葉を書いて頂くことにしました！

想いのこもった
ひとことが書かれた
ノート。見るのが
楽しみです！

四月から、講師の皆さんに、ひとこと好きな言葉を書いて頂くことになりました。このひとことに講師の想いがあらわれています。ぜひ、高知市倫理法人会のモーニングセミナー会場でぜひご覧ください！



講話紹介 中西浩名誉研究員による講話「人生五計」を紹介します！

中西浩先生。高知市倫理法人会に来たる！

4月12日木曜日に、一般社団法人倫理研究所 法人局 中西浩名誉研究員により「人生五計」というテーマでお話し頂きました。中西氏は、全国の経営者から慕われ、その舌鋒鋭い弁舌は、多くの経営者を救い、また繁栄の導きを行っています。高知県内においても、西森スーパーバイザーや久万田相談役など、中西氏から指南をうけたかたも多く、またその言葉に奮起して、事業を繁栄させています。

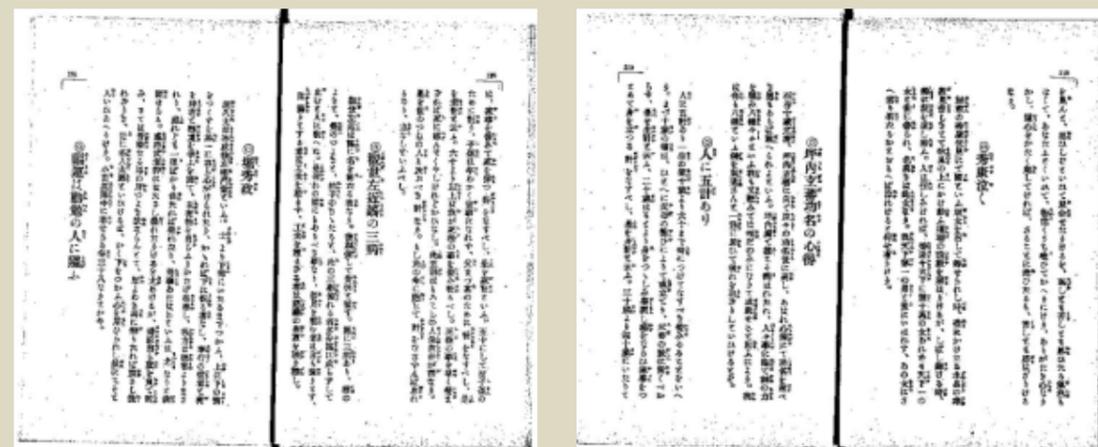


「人生五計」について

「五計(ごけい)」とは、5つの計画(はかりごと)のことで、人生をよりよく生きるための5つの教訓を意味します。南宋の官史・朱新仲(1097-1167)が唱えたものなどがあります。

明治時代の書物「芳譚」は、10歳から60歳までの人の人生においてなすべきことに五計がある、とし、次のように説明しています。10歳のころは、父母の養いで成り立っているから、父母の教えに背かない(生計)。20歳は身を慎んで、学問、芸、家学を学び、身を立てる計画をすべし(身計)。30~40歳は家庭を営み、保つ計画をすべし(家計)。50歳では、世事に慣れていない子孫のために父親として計画をすべし(老計)。60歳になったら死後のことを計画すべし(死計)。

また、昭和初期の陽明学者・安岡正篤は、この「五計」を いかにかに生きるべきか(生計)、いかにかに社会に対処していくべきか(身計)、いかにかに家庭を営んでいくべきか(家計)、いかにかに歳を取るべきか(老計)、いかにかに死すべきか(死計)と解釈しています。



「人に五計あり」(『芳譚』)